

1次産業の影響が比較的大きく、世帯規模は社会の基本構造に依存するところが大きいと考えられる。

D—20 家計の基礎としての世帯構造の変化

お茶大家政 伊藤 秋子

1. 家計に影響を与える要因として所得とともに大きな力を持つ世帯構造の変動と、変動をもたらす要因について考察する。

2. (1) 材料は主として国勢調査結果を用いる。(2) 世帯構造としては世帯人員数と核家族世帯の割合に焦点を置く。(3) 世帯構造変動の要因をみるためには相関分析を行なう。

3. (1) time series による分析の結果、昭和5, 25, 30, 35, 40年の国勢調査結果によると世帯人員数は35年から急激に縮小した。(2) space series による分析の結果、先進地域では世帯人員数は小さく、後進地域は大きいという一般傾向がある。しかし、後進地域は東北地方のタイプと鹿児島県を代表とするタイプのつに分けられる。(3) 世帯人員数縮小の要因 世帯数の増加率が人口増加率よりも大きいのは、家族の核分解によるところと考えられる。核家族数の全普通世帯数に対する割合を大正9, 昭和35, 40年とみていくと著しく大きくなった。また、世帯人員数に影響を与えるとみられる要因のうち資料の得られるものについて重相関分析を行なうと、第